ISSN 0916－2461

民俗文化

第25号　近畿大学民俗学研究所
2013-7

民俗文化

第二十五号

①蕪島
（青森県八戸市、2012 年 8 月、藤井撮影）

②えんぶり
（青森県八戸市、1971 年 2 月、渡辺撮影）

③墓念仏
（青森県階上村、1974 年 8 月、渡辺撮影）

④駒踊り
（青森県階上村、1974 年 8 月、渡辺撮影）

⑤久慈秋祭り
（岩手県久慈市、1996 年 9 月、渡辺撮影）

⑥久喜の集落
（岩手県久慈市、1999 年 8 月、藤井撮影）

⑦南部牛方の像
（岩手県野田村、1999 年 8 月、藤井撮影）

⑧復興した三陸鉄道の線路
（岩手県野田村、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑨太田名部の防潮堤
（岩手県普代村、2012 年 8 月、藤井撮影）
この防潮堤は平成 23 年（2011）の津波を防ぎ、太田名部集落の人家や人命は守られた。

⑩防潮堤の中にある漁家
（岩手県普代村、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑪三陸鉄道
（岩手県普代村、1999 年 5 月、藤井撮影）

⑫鵜鳥神楽（岩手県普代村・鵜鳥神社、1999 年 5 月、藤井撮影）

⑬鵜鳥神社例大祭で販売される田楽
(岩手県普代村・鵜鳥神社、1999 年 5 月、藤井撮影)

⑭サケ供養塔
（岩手県普代村、1999 年 5 月、藤井撮影）

⑮道の駅田野畑
（岩手県田野畑村、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑯茂師の港
（岩手県岩泉町、1999 年 8 月、藤井撮影）

⑰防潮堤
（岩手県宮古市田老、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑱被災地の見学
（岩手県宮古市田老、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑲心公院から鍬ヶ崎を望む
（岩手県宮古市鍬ヶ崎、1999 年 7 月、藤井撮影）

⑳心公院から鍬ヶ崎を望む
（岩手県宮古市鍬ヶ崎、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉑船大工が作っていた船の模型
（岩手県宮古市鍬ヶ崎、1999 年 7 月、藤井撮影）

㉒仮設集会所の建設
（岩手県宮古市鍬ヶ崎、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉓港から集落を望む（岩手県宮古市重茂石浜、2000 年 8 月、藤井撮影）

㉔石浜神社から集落を望む
（岩手県宮古市重茂石浜、2000 年 8 月、藤井撮影）

㉕石浜神社から集落を望む
（岩手県宮古市重茂石浜、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉖明治・昭和・平成の津波の石碑と重茂里の集落
（岩手県宮古市重茂里、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉗姉吉の集落跡
（岩手県宮古市重茂姉吉、2012 年 8 月、藤井撮影）
　姉吉の集落は明治 29 年、昭和 8 年の津波で大きな被害を受けた。昭和 8 年の津波ののち、「ここより下に家を建てるな」と書いた石碑を建て、集落を川沿いの高台に移転した。平成の津波では、昭和 8 年までの集落の場所は津波が襲ったが、現在の集落に被害はなかった。

㉘山田秋祭り
（岩手県山田町、1978 年 9 月、渡辺撮影）

㉙養殖いかだ
（岩手県山田町、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉚大槌の港
（岩手県大槌町、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉛ JR 山田線・鵜住居駅
（岩手県釜石市鵜住居、2000 年 7 月、藤井撮影）

㉜「橋供養」
（岩手県釜石市箱崎、2000 年 7 月、藤井撮影）

㉝「橋供養」
（岩手県釜石市箱崎、2012 年 8 月、藤井撮影）

㉞箱崎白浜の港と集落
（岩手県釜石市、2000 年 7 月、藤井撮影）

㉟箱崎白浜の港と集落
（岩手県釜石市、2012 年 8 月、藤井撮影）

㊱民家の神棚
（岩手県釜石市箱崎白浜、2012 年 8 月、藤井撮影）
　神棚の下に吊り下げている紙はオカザリという。商店で売っている。オカザリは一二月二八日か三〇日に取り換える。新しく貼って、新しい年を迎える。

㊲トド供養塔
（岩手県釜石市両石、2012 年 8 月、藤井撮影）

㊳橋上市場（岩手県釜石市、2000 年 7 月、藤井撮影）

㊴橋上市場
（岩手県釜石市、2000 年 7 月、藤井撮影）

㊵橋上市場横の露店
（岩手県釜石市、2000 年 7 月、藤井撮影）

㊶唐丹祭り（岩手県釜石市唐丹、1970 年 4 月、渡辺撮影）

㊷津波の記念碑
（岩手県釜石市唐丹本郷、2012 年 8 月、藤井撮影）

㊸津波の記念碑
（岩手県釜石市唐丹本郷、2012 年 8 月、藤井撮影）

㊹のぼとの淵
（岩手県遠野市松崎、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

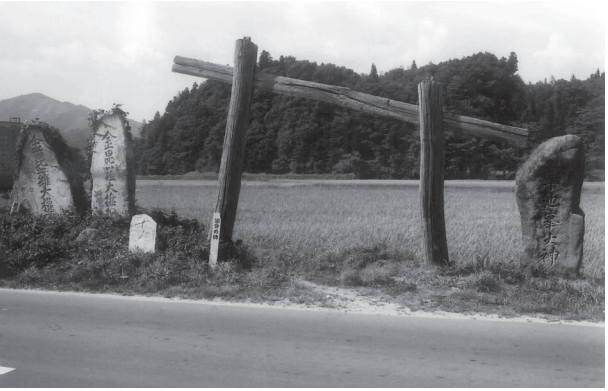
㊺曲がり家
（岩手県遠野市砂子沢、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊻水車
（岩手県遠野市小友、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊼臼を作る
（岩手県遠野市松崎、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊽柄に自然木を利用した鍬
（岩手県遠野市綾織、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊾獅子踊り
（岩手県遠野市青笹、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）



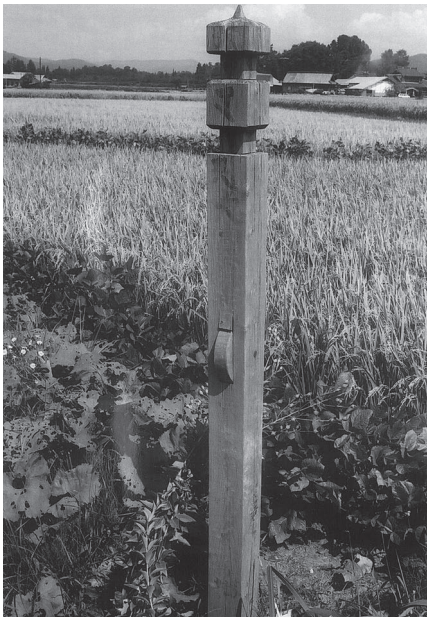
㊿早池峰参道
（岩手県遠野市土淵、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

51オシラサマ
（岩手県遠野市土淵、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊷オビンヅルサマ
（岩手県遠野市常堅寺、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊸コンセイサマ
（岩手県遠野市荒川駒形神社、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊹奉納された剣
（岩手県遠野市小友・岩瀧神社、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）



㊺クルマトウバ
（岩手県遠野市青笹、1975 年 9 月、胡桃沢撮影）

㊻スネカ
（岩手県大船渡市、1980 年 1 月、渡辺撮影）

㊼獅子
（岩手県大船渡市吉浜、1980 年 1 月、渡辺撮影）

㊽うたいこみ
（大船渡市千才、1980 年 1 月、渡辺撮影）

㊾綾里の集落
（岩手県大船渡市綾里、2012 年 3 月、藤井撮影）
　昭和 8 年の津波後に、高台に集団移転した。このため、東日本大震災では民家に対する被害は少なかった。

⑥⓪けんか七夕
（岩手県陸前高田市、1976 年 8 月、渡辺撮影）

⑥①けんか七夕
（岩手県陸前高田市、1976 年 8 月、渡辺撮影）

⑥②海上七夕祭り
（岩手県陸前高田市、1987 年 8 月、渡辺撮影）

⑥③七夕祭り
（岩手県陸前高田市、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑥④一本松（岩手県陸前高田市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑥⑤市街地跡に積み上げられたがれき
（岩手県陸前高田市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑥⑥陸前高田市立博物館跡
（岩手県陸前高田市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑰柳田国男「二十五箇年後」の石碑
（宮城県気仙沼市唐桑町、2012 年 3 月、藤井撮影）
　柳田国男は、明治 29 年の大津波の 25 年後に三陸地方を訪れ、朝日新聞の連載記事に「二十五箇年後」という文章を寄せた。

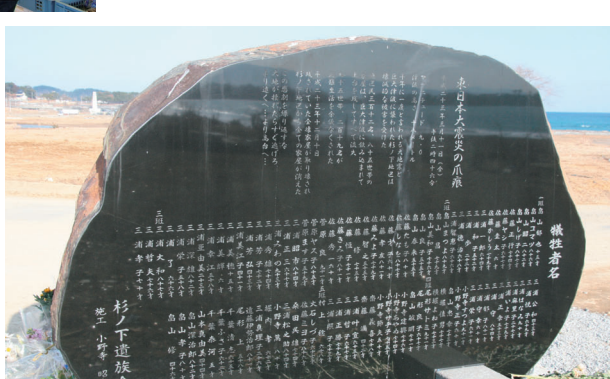
⑱「鯨塚」
（宮城県気仙沼市唐桑町、2012 年 3 月、藤井撮影）
　昔、嵐にあった漁船をクジラが御崎神社沖まで誘導して助かったという。そのクジラを祀ったもの。神社はクジラを神の使いとしており、氏子はクジラを捕らないし、食べることもない。

⑲気仙沼市街地を大島から望む
（宮城県気仙沼市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑳津波で市街地に流された共徳丸
（宮城県気仙沼市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑦1再開したお魚いちば
（宮城県気仙沼市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑦2東日本大震災の追悼碑
（宮城県気仙沼市杉ノ下、2012 年 3 月、藤井撮影）



⑦3南三陸町防災庁舎跡
（宮城県南三陸町、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑦4南三陸さんさん商店街
（宮城県南三陸町、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑮津波の石碑と集落
（宮城県南三陸町長清水、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑯大川小学校跡
（宮城県石巻市釜谷、2012 年 11 月、大脇撮影）
　児童・教職員の７割が津波にさらわれた悲劇の地。２階建ての校舎と校庭は立入禁止になっており、正門前に慰霊碑・供養塔・三重石塔・大小の地蔵菩薩像・「子まもり」と題した石像、鎮魂の鐘などが立てられ、ぬいぐるみ・人形・花などが供えられている。

⑰雄勝
（宮城県石巻市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑱女川
（宮城県女川町、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑲津波の石碑
（宮城県石巻市長塩谷、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑳金華山
（宮城県石巻市、2005 年 8 月、藤井撮影）

㉑クジラの解体
（宮城県石巻市鮎川、2005 年 8 月、藤井撮影）

㉒石巻の称法寺
（宮城県石巻市南浜町、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑧③北上川河口
（宮城県石巻市、2005 年 8 月、藤井撮影）

⑧④日和山から北上川河口を望む
（宮城県石巻市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑧⑤日和山
（宮城県石巻市、2012 年 3 月、藤井撮影）

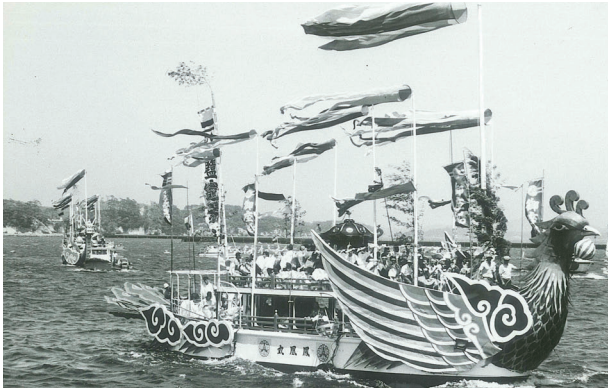
⑧⑥石巻
（宮城県石巻市、2012 年 3 月、藤井撮影）

⑰北上川のカヤ原
（宮城県石巻市、2012 年 11 月、大脇撮影）
　遠くにみえる新北上大橋の向こうに大川小学校がある。河原には日本有数のカヤ原がひろがりカヤ葺き屋根の修理を支えてきたが、津波によってその多くが流出した。

⑱カヤ葺き屋根工事を専門に行う会社
（宮城県石巻市、2012 年 11 月、大脇撮影）
　新北上大橋の少し上流左岸に建てられた熊谷産業の作業場。壁はオランダの技術をとり入れたカヤ葺きで覆われている。ここも津波の被害を受けまだ避難地区に指定されており、住居の本格的再建は認められていない。

⑲松山の町並み
（宮城県大崎市、2012 年 11 月、大脇撮影）
　松山は伊達氏の重臣茂庭家の上野館を中心に盛えた。本町の通りは四間幅であるが、昔は中央に堀が通じていた。町外れにある茂庭家霊屋の墓碑も地震でその多くが倒れたという。

⑳塩釜港祭り
（宮城県塩釜市、1971 年 8 月、渡辺撮影）



⑨1清酒の蔵元
（宮城県塩釜市、2012 年 11 月、大脇撮影）
　塩釜本町にも津波が押し寄せ、市民交流センターでもその高さが１メートルを越えた。町中にはあちこちに空地が目立ち、市街地再開発事業予定地には「覚悟」と大書した看板が立てられていた。

⑨2冷鉱泉
（宮城県七ヶ浜町、2005 年 8 月、藤井撮影）
　日本武尊が発見し、身を清めたといわれる。その後、出羽三山に参詣する際には、必ずここで身を清めるという風習があった。

⑨3仙台七夕祭り
（宮城県仙台市、1999 年 6 月、藤井撮影）

⑨4震災で壊れた仙台城の石垣と塀
（宮城県仙台市、2012 年 11 月、大脇撮影）
　仙台城の石垣も地震で大きな被害を受け、本丸北西や二の丸東側の石垣などが崩落し変形した。ただし本丸の大石垣は平成９年から 16 年にかけての解体修復工事のおかげでびくともしなかった。

⑮閑上湊神社・富主姫神社
（宮城県名取市、2012 年 11 月、藤井撮影）
　閑上地区は津波で壊滅的な被害を受けた。日和山にはもともと海の神として富主姫神社が祀られていた。閑上湊神社は日和山から約 500 メートル離れた場所にあった。2 つの神社ともに流された。震災 3 か月後に、閑上地区の復興のシンボルとして、日和山に 2 つの神社を合わせて祀るようになった。平成 25 年（2013）春には、富主神社の社殿が日和山にでき、湊神社の神も遷座した。

⑯倒壊した昭和 8 年の津波記念碑
（宮城県名取市閑上、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑰貞山堀
（宮城県名取市、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑱倒れた防潮林
（宮城県岩沼市、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑨⑨製塩場跡の岩穴
（福島県相馬市、2012 年 11 月、藤井撮影）
　松川浦には、小島や岸壁の岩肌に穴を掘り、潮の満ち引きを利用して塩を作る自然の塩田があった。

⑩⑩船越観音に奉納された錨
（福島県相馬市尾浜、2012 年 11 月、藤井撮影）
　南北朝時代に尾浜に住み着いた菊池氏の子孫（備中四家）は、明治の初めまで、江戸と松前、三陸を行き来する船の船主や水夫として活躍した。船をやめたあと、備中四家の守り仏を本尊とする船越観音堂の境内に船の錨を奉納した。

⑩①奉納されたクジラの骨
（福島県南相馬市原町区北泉、2012 年 11 月、藤井撮影）
　昭和 30 年代、北泉の海岸に打ち上げられたクジラを分け合って食用にしたあと、地元の塩釜神社境内に骨の一部を奉納した。

⑩②サケ人工ふ化場（左）とサケ供養塔（右）
（福島県南相馬市原町区泉、2012 年 11 月、藤井撮影）
　新田川のほとりにある。サケ供養塔の右側にはサケ食堂もある。震災後、養殖場も食堂も閉鎖されている。

⑬震災後も遡上するサケ
（福島県南相馬市烏崎、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑭相馬野馬追の会場
（福島県南相馬市、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑮避難指示解除準備区域となっている小高地区の海岸
（福島県南相馬市、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑯浜降り
（福島県南相馬市江垂、1980 年 4 月、渡辺撮影）

⑦除染作業中の農地
（福島県飯舘村、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑧住民が避難している民家
（福島県飯舘村、2012 年 11 月、藤井撮影）

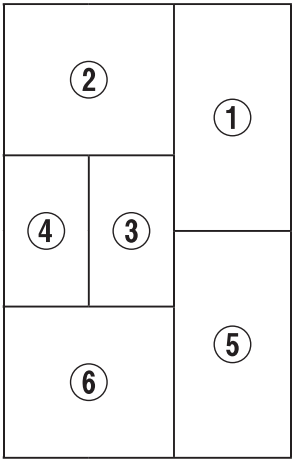
⑨波立薬師
（福島県いわき市久ノ浜町、2001 年 12 月、藤井撮影）
　津波が襲ったが、本堂に被害はなかった。本尊の薬師如来は海から出現した。

⑩なみえ焼きそばののぼり
（福島県二本松市、2012 年 11 月、大脇撮影）
　11 月 23・24 日に二本松駅周辺で開かれた「復興なみえ町　十日市祭」でみかけたご当地グルメの一つ極太麺の「なみえ焼きそば」の店。浪江町は原発事故の影響を受けて全域に避難指示が出され、住民の多くと町役場が二本松市に避難中である。

⑪益子焼の釉を掛けた本焼赤瓦の登り窯（福島県二本松市、2012 年 11 月、大脇撮影）
７段の登り窯の４段目からひとまわり大きい７段目の素焼窯までの写真。採算がとれず、すでに操業停止状態であったが、最上部の煙道と焼突が地震で崩壊した。

⑫白虎隊士の供養車
（福島県会津若松市、2012 年 11 月、大脇撮影）
傍らの説明板に「この車を廻せば悲痛な音を発し、これが冥土にとどいて白虎隊士の霊魂を慰めるものです。また石の台は中国伝説の獏といい夢を喰うので、その頭にのぼれば悪夢消滅の願いをかなえると言はれます。心静かにお廻し下さい」とあった。

⑬旧正宗寺三匝堂（さざえ堂）
（福島県会津若松市、2012 年 11 月、大脇撮影）
寛政８年（1796）の造立といわれる。スロープの内側に沿って西国三十三か所の観音が祀られており、一度入ると巡礼をしたことになる。



表紙

①相馬野馬追い

（福島県南相馬市、1977 年 7 月、渡辺撮影）

②七夕祭り

（岩手県陸前高田市、2012 年 8 月、藤井撮影）

③気仙沼湾の漁船

（宮城県気仙沼市、2012 年 3 月、藤井撮影）

④閖上の日和山

（宮城県名取市、2012 年 11 月、藤井撮影）

⑤津波の石碑

（岩手県宮古市重茂姉吉、2012 年 8 月、藤井撮影）

⑥浜降り

（福島県南相馬市江垂、1980 年 4 月、渡辺撮影）

0 20km 40km 60km 80km100km
八戸市
階上町
洋野町
久慈市
野田村
普代村
田野畑村
岩泉町
宮古市
山田町
大槌町
遠野市
釜石市
大船渡市
陸前高田市
気仙沼市
南三陸町
石巻市
女川町
東松島市
松島町
塩釜市
七ヶ浜町
仙台市
名取市
岩沼市
亘理町
山元町
新地町
相馬市
福島市
二本松市
南相馬市
浪江町
双葉町
大熊町
富岡町
楢葉町
広野町
会津若松市
いわき市

目　次

表紙・口絵写真　東北地方の民俗……　大脇　潔
胡桃沢　勘　司
藤　井　弘　章
渡　辺　良　正

東北地方の民俗

みちのく蔓紀行　――宮城・福島県の被災地を歩いて――　……　大脇　潔　1
『遠野物語』の中の近世　――交通・交易伝承を中心に――　……　胡桃沢　勘　司　79
海と山をつなぐ民俗　――被災地・三陸海岸での出来事を緒にして――　……　戸井田　克　己　107
東北地方太平洋沿岸のウミガメの民俗
――東日本大震災後の追跡調査を踏まえて――　……　藤　井　弘　章　127
東日本大震災後の福島県相双地方の社会と民俗
――津波と原発事故による地域コミュニティと民俗の危機――　……　二本松　文　雄　213

東日本大震災から生活回復への希求
福島県浪江町請戸地区の場合 …… 今村瑠美 229
津波の記憶 …… 藤井弘章 297

書評と紹介

野本寛一著『自然と共に生きる作法・水窪からの発信』 …… 戸井田克己 341
平山昇著『鉄道が変えた社寺参詣―初詣は鉄道とともに生まれ育った』 …… 井田泰人 349

付　録

民俗学研究所第二五回公開講演会　海難と供養（要旨） …… 川島秀一 355
執筆者紹介 …… 363
投稿規程 …… 365

東北地方の民俗

書評と紹介

執筆者紹介

――生年・出身地・現職・著作――

大脇潔（おおわき　きよし）一九四七年、愛知県生まれ。前近畿大学文芸学部教授。「みちのく蔓紀行――カワラ前線北上スレドモ――」（『民俗文化』第十八号、二〇〇六年）、「松前蔓紀行――北の蔓文化の発見――」（『民俗文化』第十九号、二〇〇七年）、「対馬蔓紀行――石屋根と「南北に市羅」した瓦――」（『民俗文化』第二十号、二〇〇八年）ほか。

胡桃沢勘司（くるみさわ　かんじ）一九五一年、長野県生まれ。近畿大学文芸学部教授・同民俗学研究所所長。『西日本庶民交易史の研究』（文献出版、二〇〇〇年）、『牛方・ボッカと海産物移入』（岩田書院、二〇〇八年）、『近世海運民俗史研究――逆流海上の道――』（芙蓉書房出版、二〇一二年）ほか。

戸井田克己（といだ　かつき）一九六〇年、東京都生まれ。近畿大学総合社会学部教授・同民俗学研究所所員。『武蔵村山市史　民俗編』（共編、ぎょうせい、二〇〇〇年）、『日本の内なる国際化』（古今書院、二〇〇五年）、『近畿を知る旅』（分担執筆、ナカニシヤ出版、二〇一〇年）、『高等学校新地理A』・『新詳地理B』（共著、帝国書院、二〇一〇年）ほか。

藤井弘章（ふじい　ひろあき）一九六九年、和歌山県生まれ。近畿大学文芸学部准教授、同民俗学研究所所員。『熊野川町史　通史編』（共著、和歌山県新宮市、二〇〇八年）、『丹生都比売神社史』（共著、丹生都比売神社、二〇〇九年）、『人と動物の日本史』四（共著、中村生雄・三浦佑之編、吉川弘文館、二〇〇九年）、『高野町史　民俗編』（共著、高野町、二〇一二年）ほか。

二本松文雄（にほんまつ　ふみお）　一九五七年、福島県南相馬市生まれ。南相馬市教育委員会職員。『相馬地方の妙見信仰』（南相馬市博物館、二〇〇三年）、『自然の恵みと祭り　海と川』（南相馬市博物館、二〇〇六年）、『将門伝説　相馬地方を中心として』（南相馬市博物館、二〇〇七年）、ＤＶＤ（『男山八幡神社のお浜下り』南相馬市博物館、二〇〇七年）、ＤＶＤ（『南相馬の炭焼き』南相馬市博物館、二〇〇八年）、ＤＶＤ（『南相馬の子供の祭り　小沢と下江井の天神様のお下がり』南相馬市博物館、二〇〇八年）ほか。

今村瑠美（いまむら　るみ）　一九八七年、福島県双葉町生まれ。東北学院大学大学院修士課程修了者。「大滝神社浜下りの儀礼と組織」（『磐城民俗』三六、磐城民俗研究会、二〇一一年）。

井田泰人（いだ　よしひと）　一九六九年、大阪府生まれ。近畿大学短期大学部教授。『大手化粧品メーカーの経営史的研究』（晃洋書房、二〇一二年）、『熱き男たちの鉄道物語』（共著、ブレーンセンター、二〇一二年）、『歴史に学ぶ経営学』（共著、学文社、二〇一三年）ほか。

川島秀一（かわしま　しゅういち）　一九五二年、宮城県気仙沼市生まれ。東北大学災害科学国際研究所教授。『漁撈伝承』（法政大学出版局、二〇〇三年）、『憑霊の民俗』（三弥井書店、二〇〇三年）、『津波のまちに生きて』（富山房インターナショナル、二〇一二年）ほか。

渡辺良正（わたなべ　よしまさ）　一九三三年、福岡県生まれ。毎日新聞東京本社出版写真部（一九六四―六六年）勤務後フリーとなり、日本国内の祭り、神事芸能、民俗芸能の取材に専念。現在、日本写真家協会会員、民俗芸能学会評議員。主たる写真集に、『椎葉神楽』（平河出版社、一九九六年）、『沖縄先島の世界』（木耳社、一九七二年）、『日本の祭り　山車と屋台』（サンケイ新聞社、一九八〇年）、など。

民俗文化　投稿規程

（平成二十二年十月）

一、投稿できる者は、近畿大学民俗学研究所々員および同所員より推薦を受けた者とする。

二、刷り上がりは、A五判・縦書き、一ページあたり五十一字×十九行を原則とする。原稿執筆にあたっては、できる限り、刷り上がりに合わせて字数設定を行うものとする。

三、投稿の締切日は、毎年二月末日とする。原稿は、原則として、電子記憶媒体（CD等）を添えて編集委員に提出する。

四、別刷は五十部を無料とする。

五、刊行後の報文（論文、研究ノート、書評、写真及び写真解説等）は、その著作権が近畿大学民俗学研究所に帰属する。ただし、著作者本人による転載等をさまたげるものではない。

六、刊行後の報文（論文、研究ノート、書評、写真及び写真解説等）は、冊子体以外の媒体（近畿大学学術情報リポジトリ等）で公開されることを承諾のうえ投稿すること。ただし、電子媒体での公開に際しては、著作者本人もしくは話者の意向等により、一部または全部を非公開とすることがある。

近畿大学民俗学研究所

民　俗　文　化　第25号

平成25年7月31日印刷
平成25年7月31日発行

編集・発行者　近畿大学民俗学研究所

〒577-8502
東大阪市小若江3丁目4番1号
電　話　(06) 6721－2332

印　刷　所　近畿大学 管理部 用度課

近畿大学
KINKI UNIVERSITY